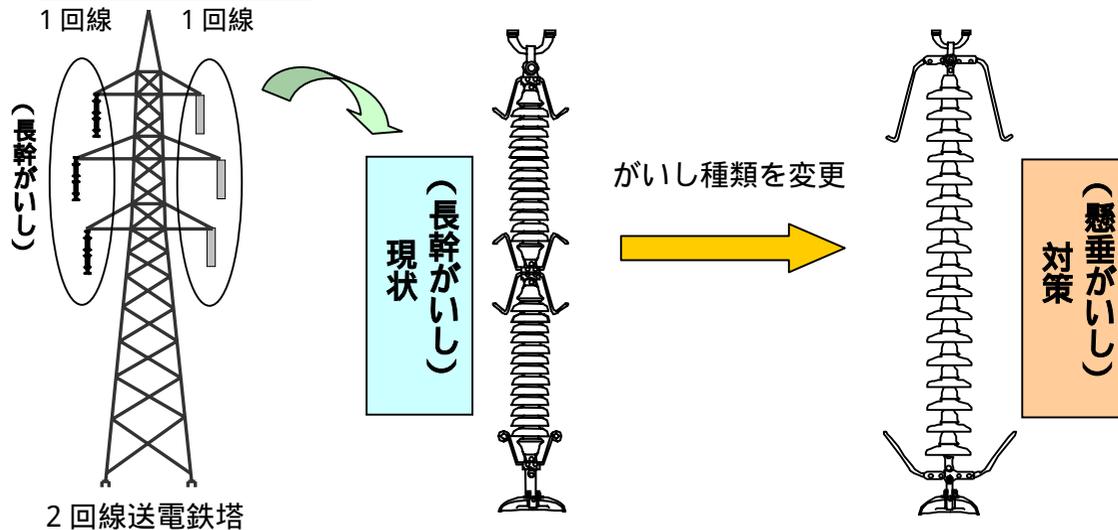


# 塩雪害対策

## 本格対策（がいし種類の変更）

懸垂がいしの難着雪効果を実証試験で確認

懸垂がいしと既設長幹がいしを併用し、それぞれの特性を生かし、種々の過酷な気象に対してより信頼性を高める



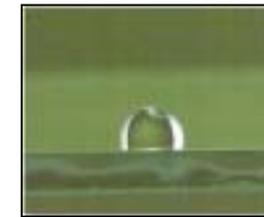
	長幹がいし	懸垂がいし
形状	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒状の磁器に適当な笠を設け、その両端に金具を取付けたもの</li> <li>ひだの間隔が短く、ひだの出幅が小さい</li> <li>1個から数個を連結して使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帽子状の磁器を絶縁体とし、これにキャップおよびピンの連結金具をセメントで接着したもの</li> <li>笠～笠間の間が長い</li> <li>連結部外径と笠径の差が大きい</li> <li>数個から10数個を連結して使用</li> </ul>
特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>累積汚損（長時間の汚損）に強い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩雪害および急速汚損（台風や季節風による海塩粒子飛来による短時間の汚損）に強い</li> </ul>

汚損とは、電氣的絶縁低下を引き起こす塩分や工場ばい煙などががいしに付着すること

## 暫定対策（シリコン塗布）

### 特徴

- 優れた撥水性を発揮します。
- 塗布面は、降雨時に水分が水滴となり一様には広がりません。（下写真参照）



シリコン膜表面の水滴

### 効果

がいし表面に塗布することで撥水性が高まることから、着雪しにくくなり、耐電圧特性の向上が期待できます。



塗布前がいし状態



塗布後がいし状態